

校長講話(始業式)

- 春休みも終わり、88名の新入生を迎えて、いよいよ令和7年度の新学期のスタートとなりました。この春休みには、大きな事故や災害等もなく、無事に新年度を迎えたこと嬉しく思います。
- 私は、入学式で新入生には、「これからの中学校生活の中で上級生が良き見本を示してくれると思りますので見習ってください」と伝えています。2・3年生の皆さん、よろしくお願ひします。
- 始業式にあたり、2点のことを皆さんにお話をしておきます。
- 1点目**は、中学生の時代は『思春期』と言われ、大人への第一歩の時期となります。その時期には、不安や悩みが多いと言われています。
- ある時期に中学生に取ったアンケートで「悩みを話せる人は誰ですか」という質問の回答として1番多かったのは「友だち」であったことを覚えています。
- 要するに、何か「悩み」や「心配ごと」があれば、一人で抱え込まず誰かに話すことができる・相談することができるということが大切であると思います。
- 友だち同士では解決が難しいような場合(『いじめ』など)は、どうか周りの大人(親・先生・カウンセラー等々)に相談してほしい。皆さんのが相談しやすい学校環境でありたいとと思っています。
- 2点目**は、私は、入学式で新入生の皆さんにお話をしたのは、「一生懸命にやることは素晴らしい」、「一生懸命やる姿はかっこよく」、「一生懸命にやることが楽しい」ということを中学校時代にたくさん経験してもらいたいと思っています。
- 例えば、皆さんのことあまりよく知らない状況ですが、ピロティーに掲げている大きな旗(団旗)をみても、体育大会で盛り上がりている様子が目に浮かんでくるようです。
- 人には得意・不得意があるので、たとえ、うまくいかなくとも一生懸命に頑張っている人への励ましの声や優しい応援が飛び交うような集団になってくれることを心より願っています。
- 昭和中学校の生徒が、優しい気持ちを持って、何事にも一生懸命に取り組んでくれることを期待しています。